

## 第3章 子どもの健康・生活と

### 「生活困難」についての分析

## 1 「生活困難」の定義

### (1) 「生活困難」の定義

本調査では、子どもの貧困状態を家庭の経済的な困窮だけでなく家庭環境全体で把握すべきであると考え、①世帯年収300万円未満、②生活必需品の非所有（子どもの生活において必要と思われる物品や5万円以上の貯金がない等）、③支払い困難経験（過去1年間に経済的理由でライフラインの支払いができなかったこと）のいずれか1つでも該当する世帯を「生活困難」にある状態と定義しました。

#### 要素① 世帯年収300万円未満

経済状況から「生活困難」を把握するもので、世帯人数にかかわらず、世帯年収300万円未満と定義しました。300万円を基準とする根拠は3つあります。

1つ目は、生活保護基準から捉えた視点です。生活保護を受給している母子世帯（母 30代、子 小学1年生）を想定した場合、その年収は生活保護基準に基づき算定すると272万円相当となり、300万円未満の年収層で経済的な「生活困難」を把握することが妥当と考えられました。

2つ目は、世帯の可処分所得から捉えた視点です。同じく母子世帯（母 30代、子 小学1年生）において、300万円の年収がすべて給与収入と考えたとき、税や社会保障費を引いて児童手当等を加味すると、世帯の可処分所得は 303万円程度と類推されました。世帯人数が増えれば経済的困窮度はさらに増すため、300万円を基準と設定することは妥当と考えられます。

3つ目は、生活必需品の非所有と支払い困難経験を年収から比較した視点です。世帯年収200万円と300万円で生活必需品の非所有、ライフラインの支払い困難経験の割合を比較したところ、ほとんど差がありませんでした。つまり、200万円を基準にすると、多くの「生活困難」層を取りこぼすおそれがあると考えられます。

以上3点から、本調査では国民生活基礎調査で用いられる、いわゆる「相対的貧困（率）」（※）の算出方法からではなく、世帯年収から経済的な困窮度を把握することとし、その基準を世帯年収300万円未満と設定しました。

※ 「相対的貧困（率）」とは、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合。貧困線とは、等価可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入である世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額。

### 要素② 生活必需品の非所有

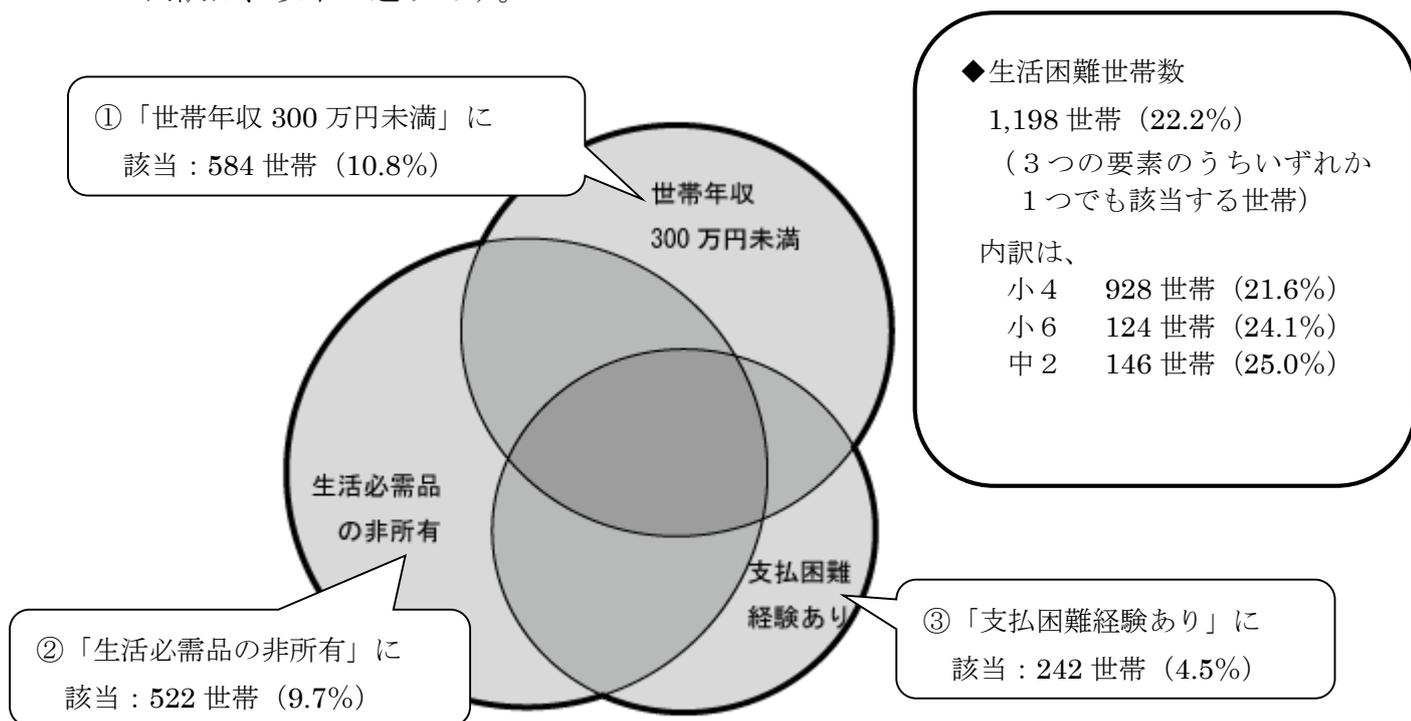
生活必需品の非所有も子どもの貧困状態を捉えるもので、「生活困難」を定義する要素の1つとしました。子どもの生活に必要なと思われる環境（自宅で宿題ができる場所等）、物品（本やおもちゃ等）、いざというときに対処できるだけの貯金（5万円以上）等がない状況で把握しました（P 5 6 参照）。

### 要素③ 支払い困難経験

ライフライン等の支払い困難経験についても、水や電気、公的な健康保険など、生活に必要なものが途絶えかねない状況に陥っているかどうかを把握できるため、「生活困難」を定義する要素の1つと捉えました（P 5 7 参照）。

## （2）「生活困難」を定義付ける各要素の割合

「生活困難」を定義付ける3つの要素について、そのいずれか1つでも該当する世帯を「生活困難」にある状態と定義しました。今回の調査で条件に該当した世帯の内訳は、以下の通りです。



要素① 「世帯年収 300 万円未満」に該当する世帯数： 584 世帯 (10.8%)

要素② 「生活必需品の非所有」に該当する世帯数： 522 世帯 (9.7%)

要素③ 「支払困難経験あり」に該当する世帯数： 242 世帯 (4.5%)

◆「生活困難」世帯数 (3つの要素のうちいずれか1つでも該当する世帯数)：

1,198 世帯 (22.2%)

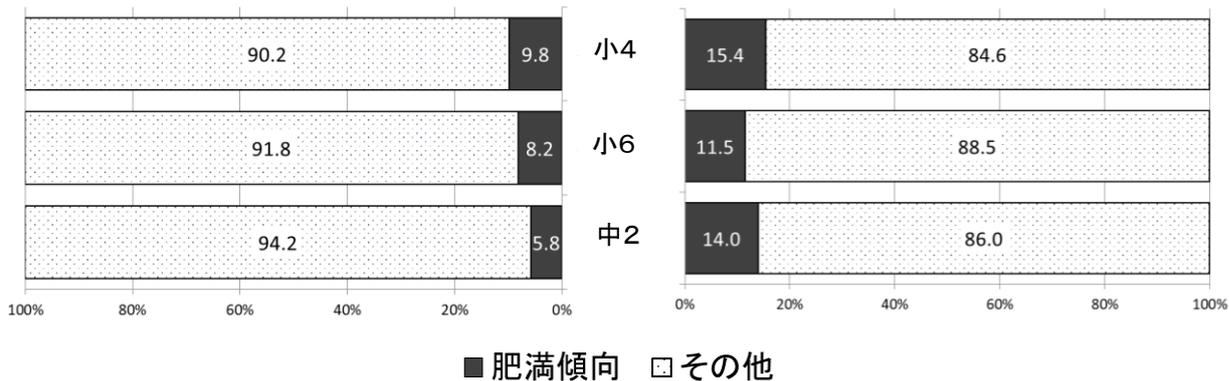
## 2 子どもの健康・生活と「生活困難」との関係

子どもの健康・生活に生活困難がどの程度関連があるかを調べるために、健康・生活に関する項目について、非生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。

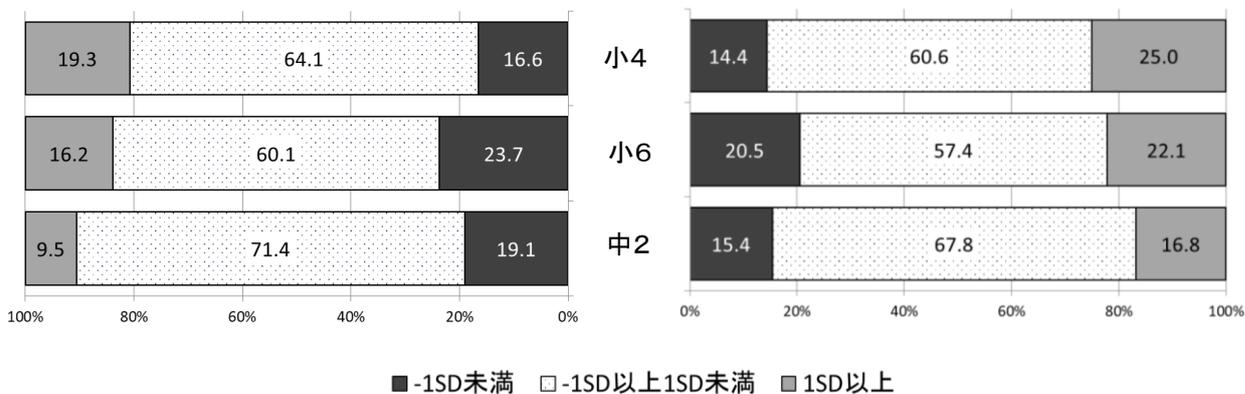
### 非生活困難世帯

### 生活困難世帯

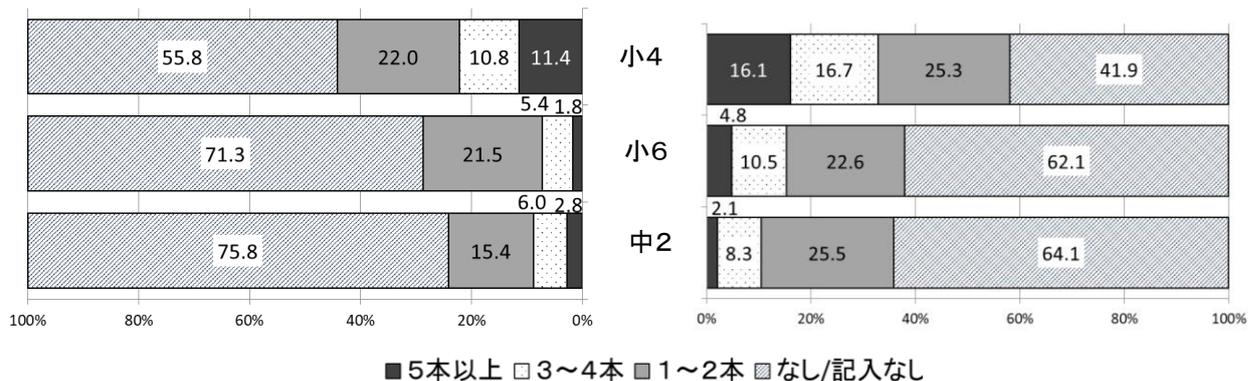
#### 【肥満】



#### 【BMI Zスコア】



#### 【むし歯の既往本数】

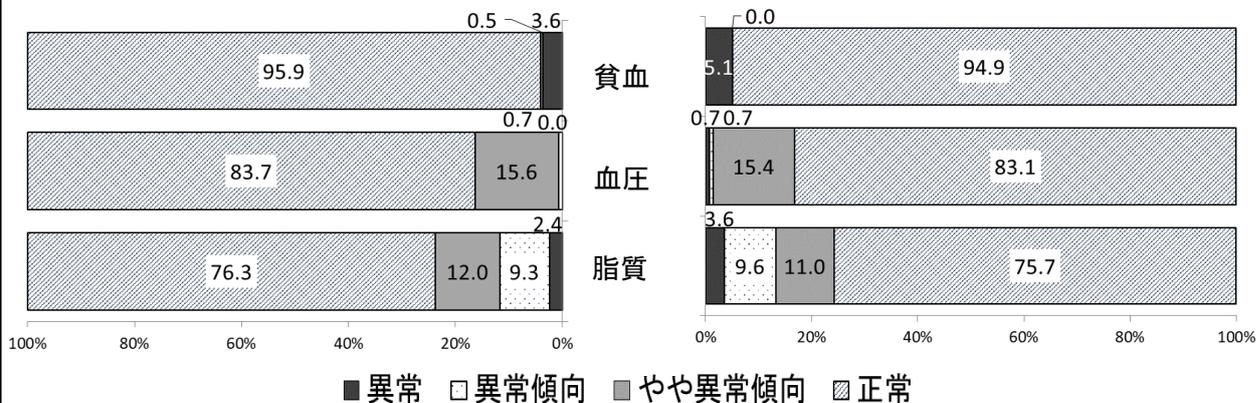


子どもの健康・こころ

非生活困難世帯

生活困難世帯

【中学2年 小児生活習慣病健診】



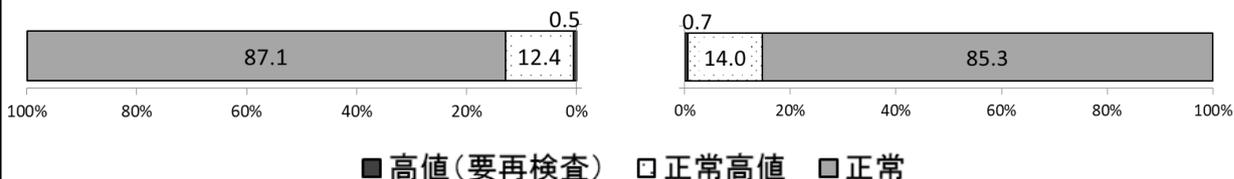
(注)

脂質判定の「異常」には「異常」と「かなり異常」が含まれる。

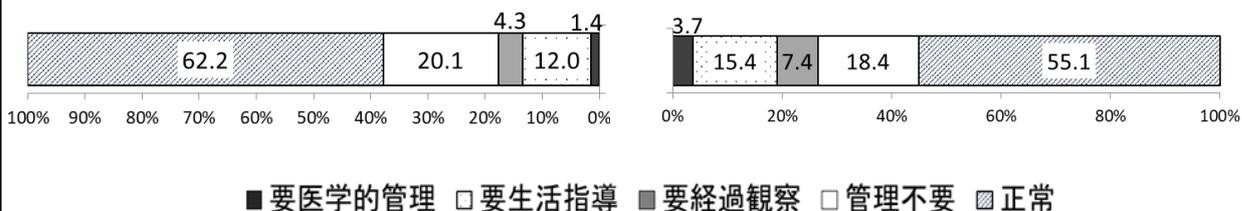
血圧判定の「異常」とは「高血圧」、「異常傾向」とは「軽度高血圧」、「やや異常傾向」とは「正常範囲だがやや高め」、「正常」とは「正常範囲」を示す。

貧血判定の「異常」とは「要受診」、「異常傾向」とは「要注意」、「やや異常傾向」とは「再検査」を示す。

【中学2年 ヘモグロビン A1c 判定】



【中学2年 小児生活習慣病健診 総合判定】

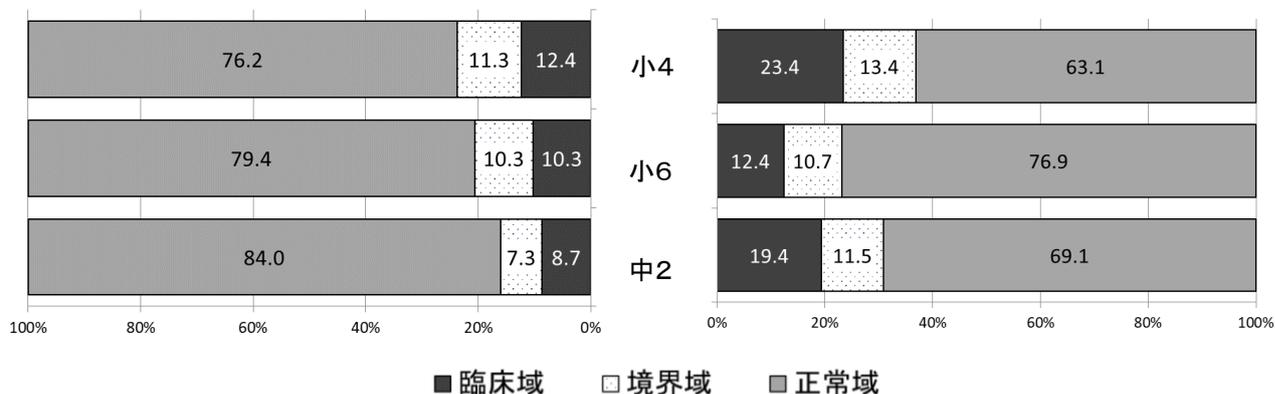


子どもの健康・こころ

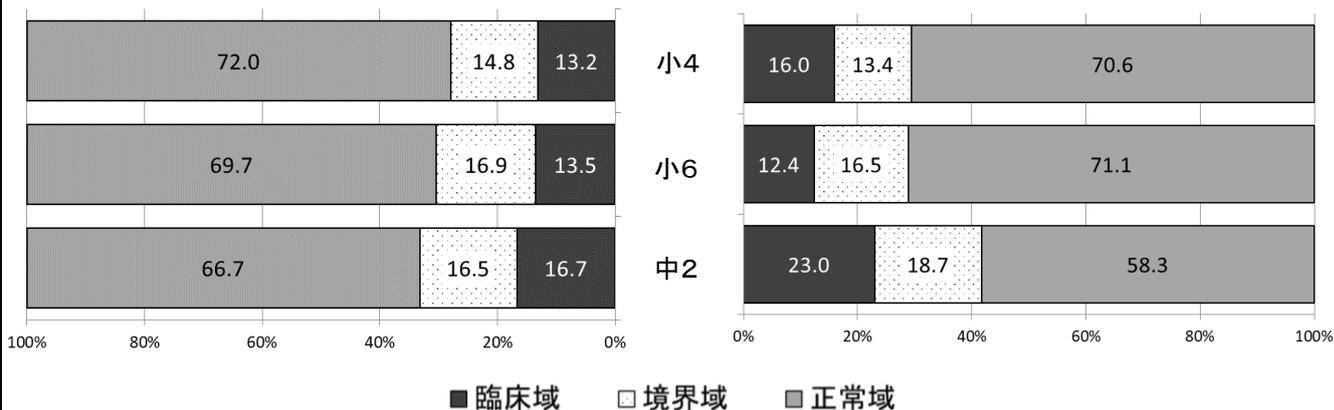
非生活困難世帯

生活困難世帯

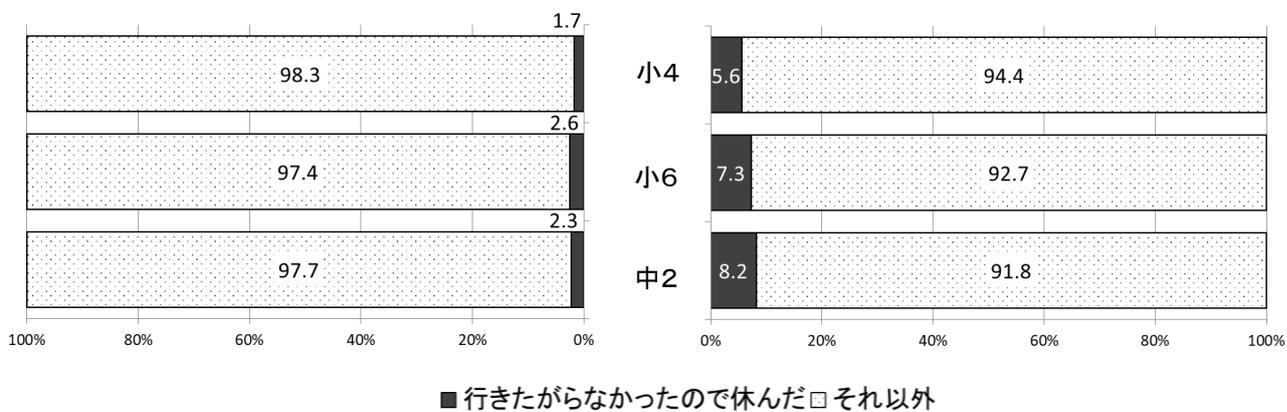
【子どもの強さと困難さ指標(SDQ) 問題行動】



【子どもの強さと困難さ指標(SDQ) 向社会性】



【登校しぶり傾向(保護者評価)】

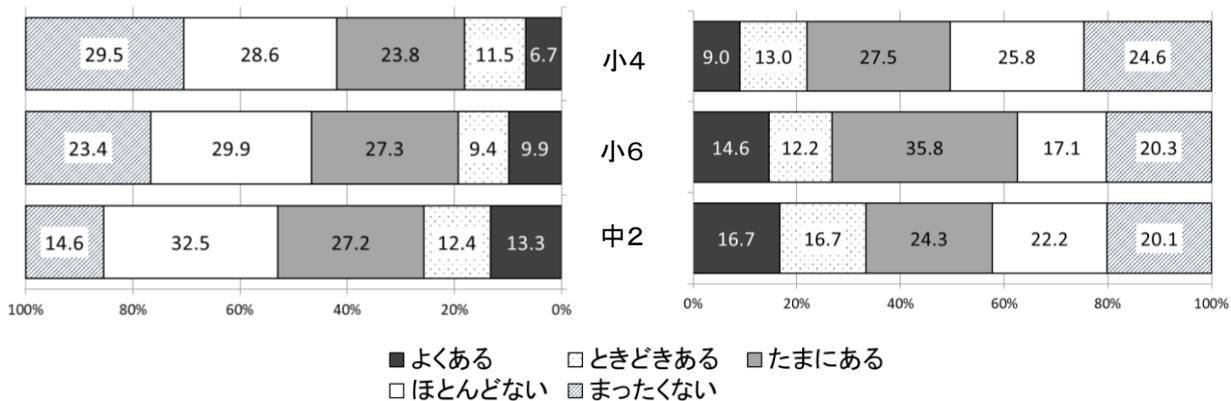


子どもの健康・こころ

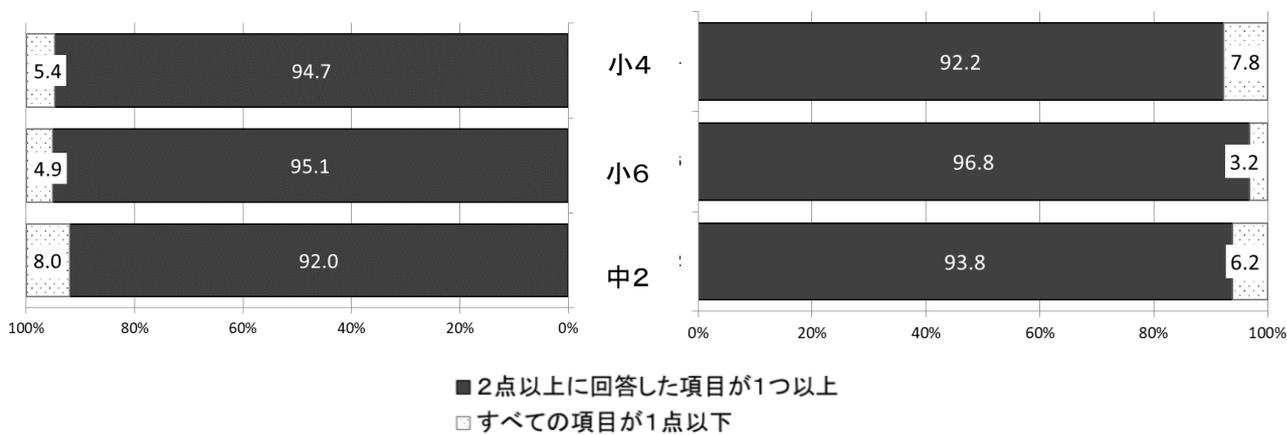
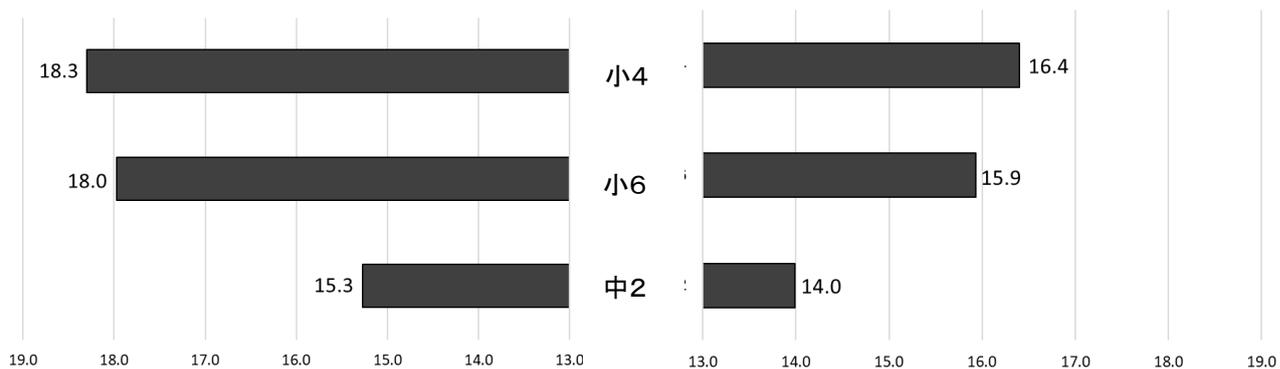
非生活困難世帯

生活困難世帯

【登校しぶり傾向】



【自己評価 平均得点】

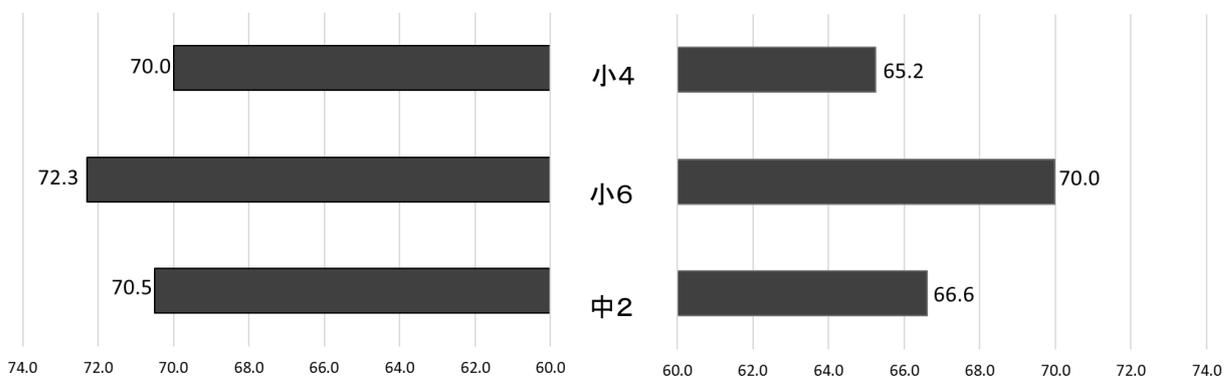


子どもの健康・こころ

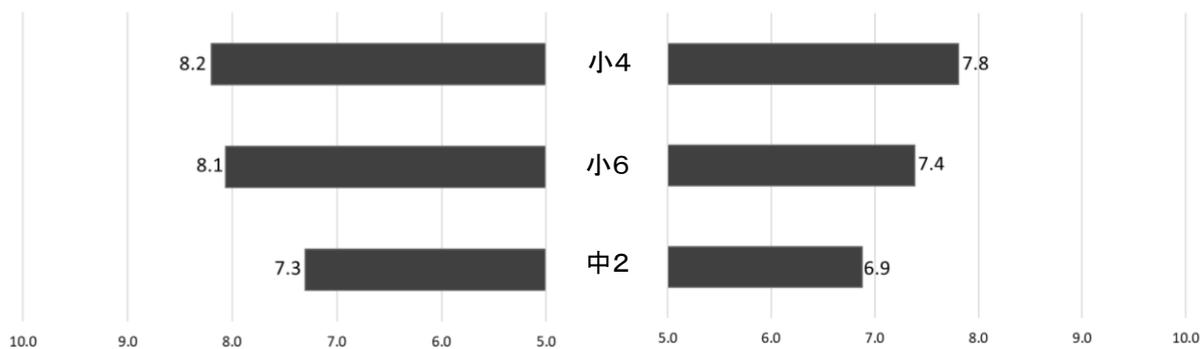
非生活困難世帯

生活困難世帯

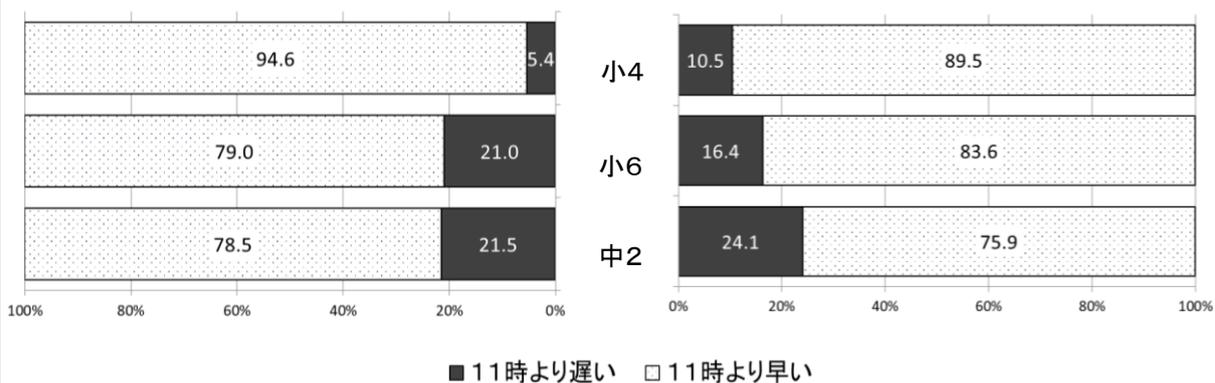
【逆境を乗り越える力 平均得点】



【幸福度 平均得点】



【平日の就寝時間】



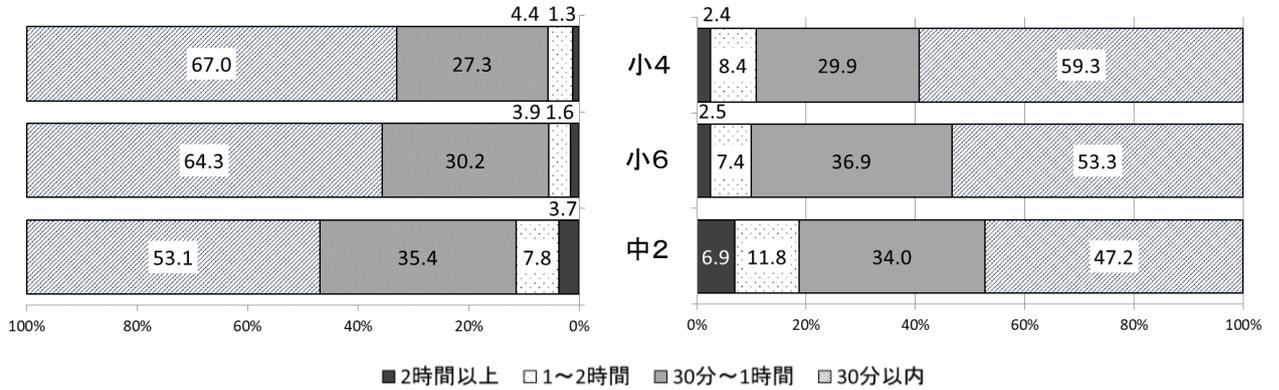
子どもの健康・こころ

子どもの生活

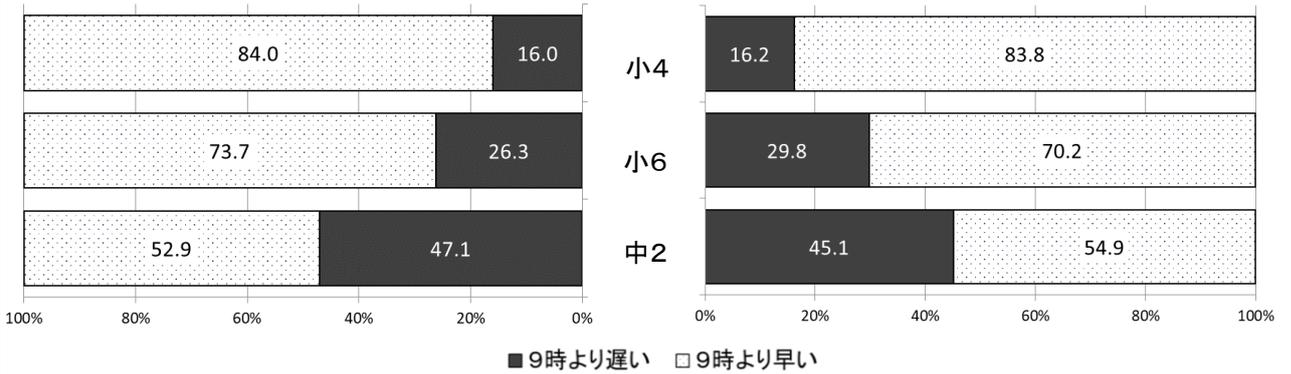
非生活困難世帯

生活困難世帯

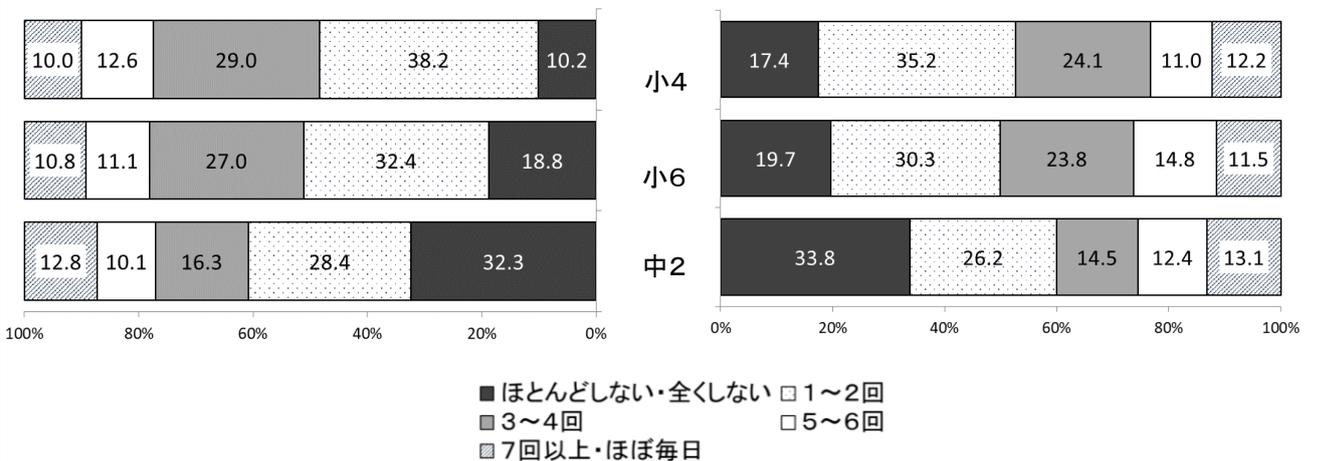
【平日の就寝時間のずれ】



【入浴時間】



【運動頻度】



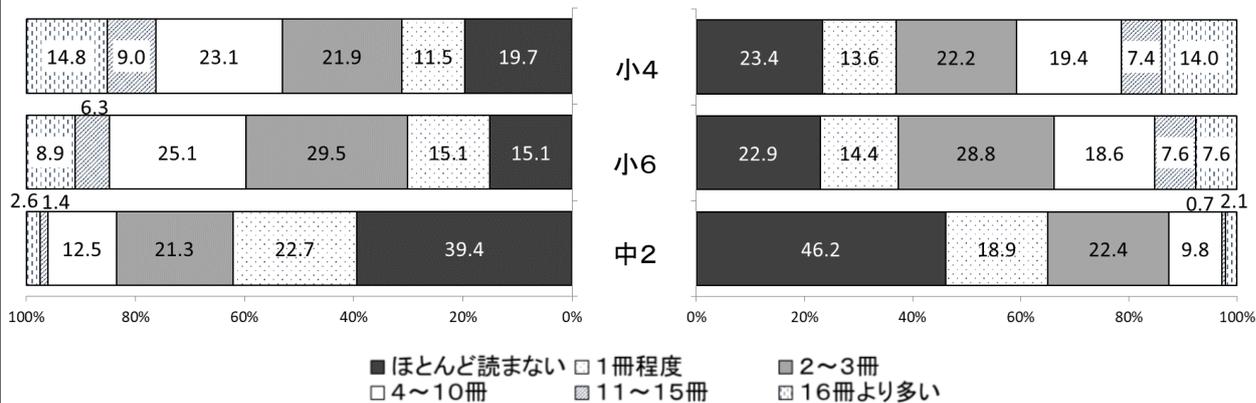
子どもの生活

非生活困難世帯

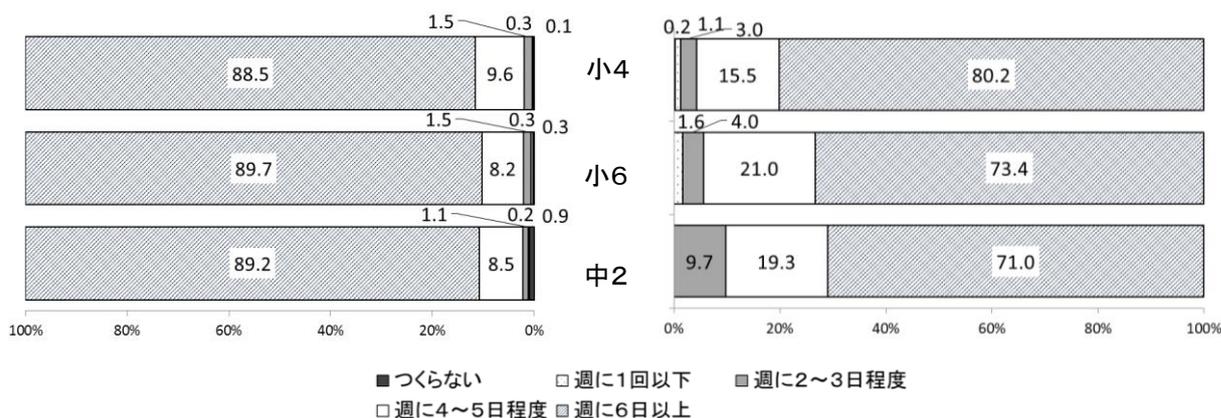
生活困難世帯

子どもの生活

【読書頻度】

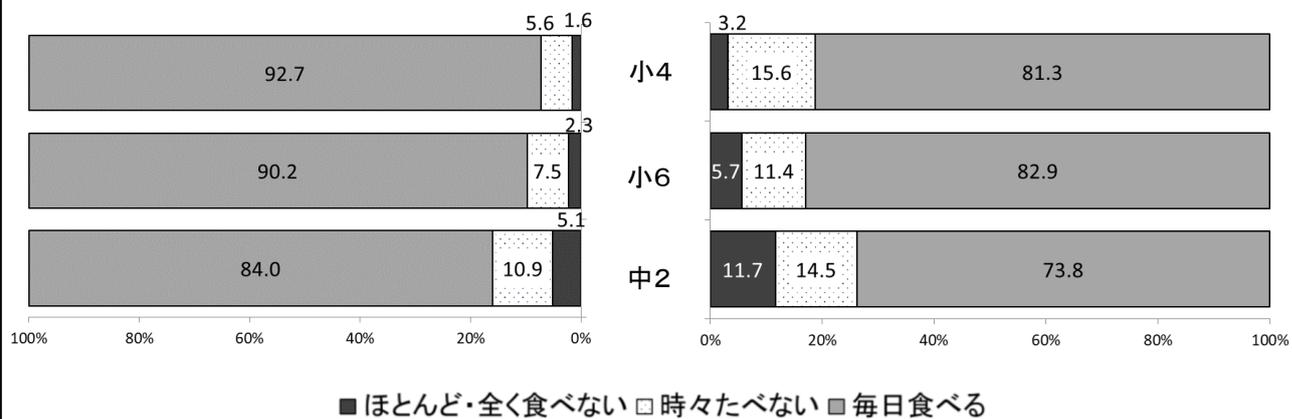


【保護者の自炊習慣】



子どもの食生活

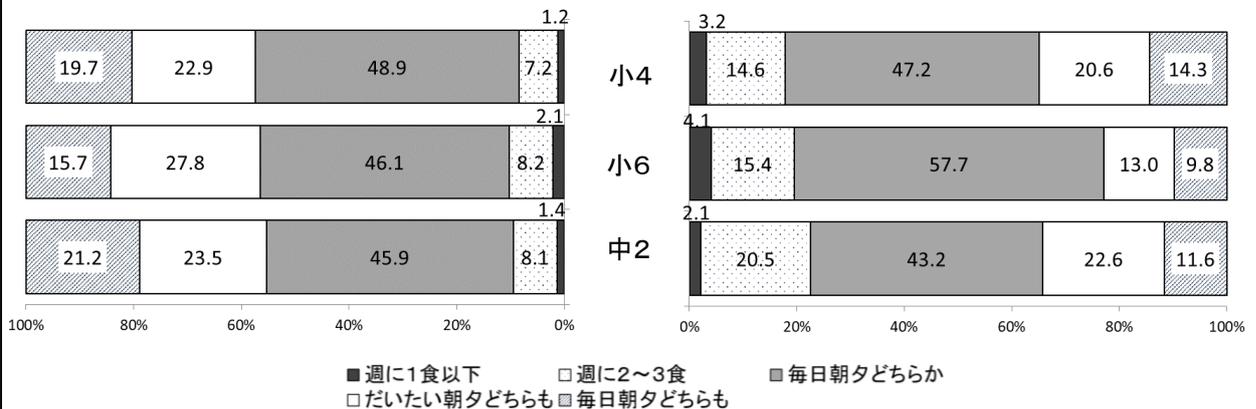
【朝食摂取】



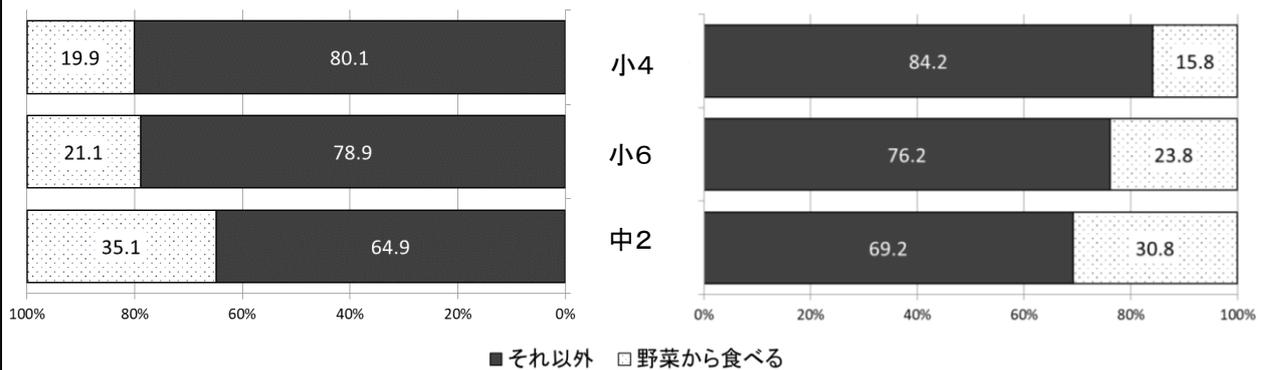
非生活困難世帯

生活困難世帯

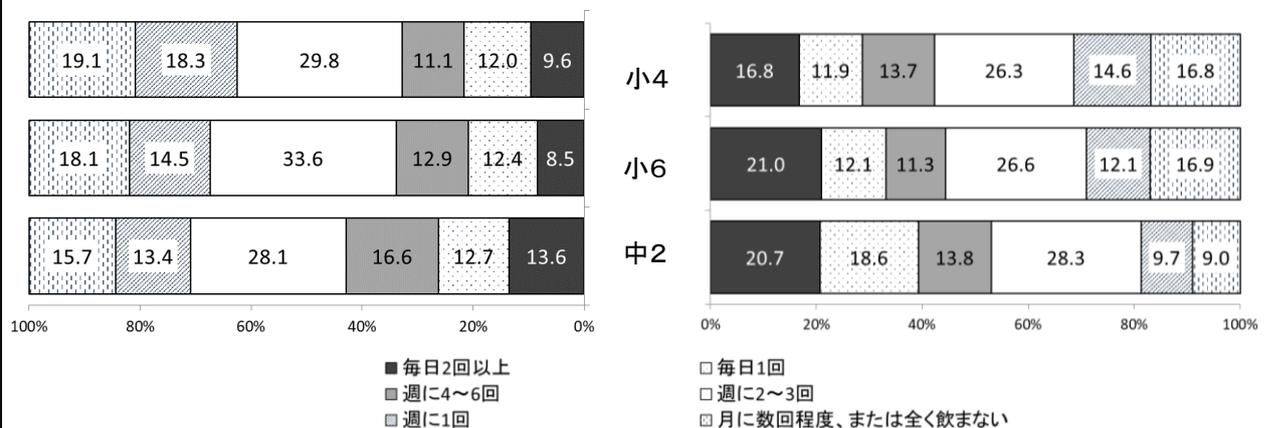
【野菜摂取】



【食事の食べる順番】



【ジュース摂取頻度】

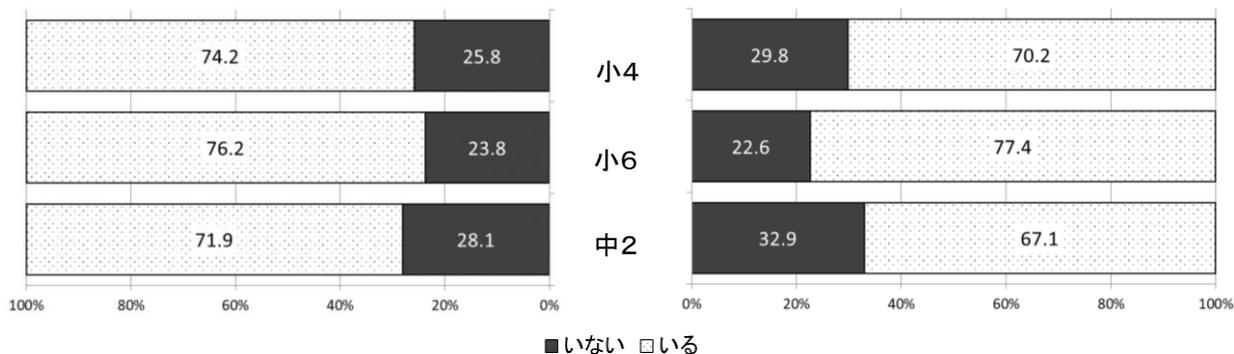


子どもの食生活

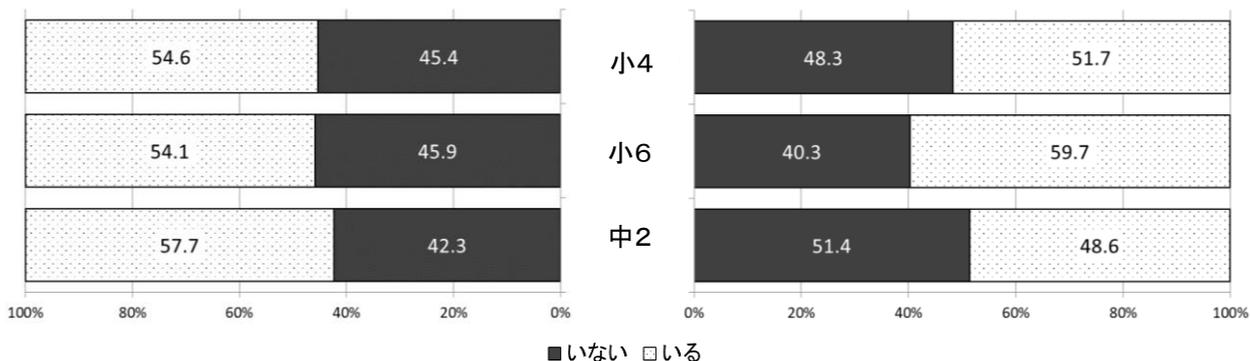
非生活困難世帯

生活困難世帯

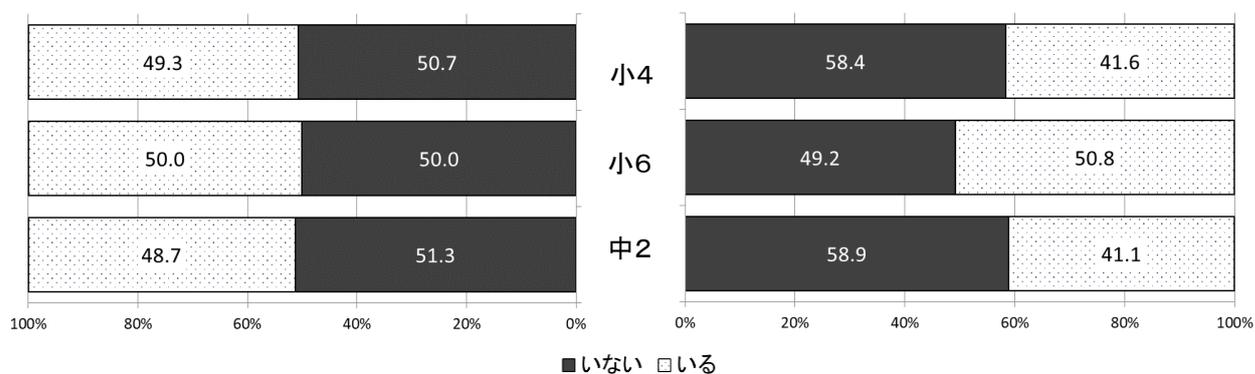
【信頼できる人の有無】



【気軽に相談できる人の有無】



【尊敬できる人の有無】

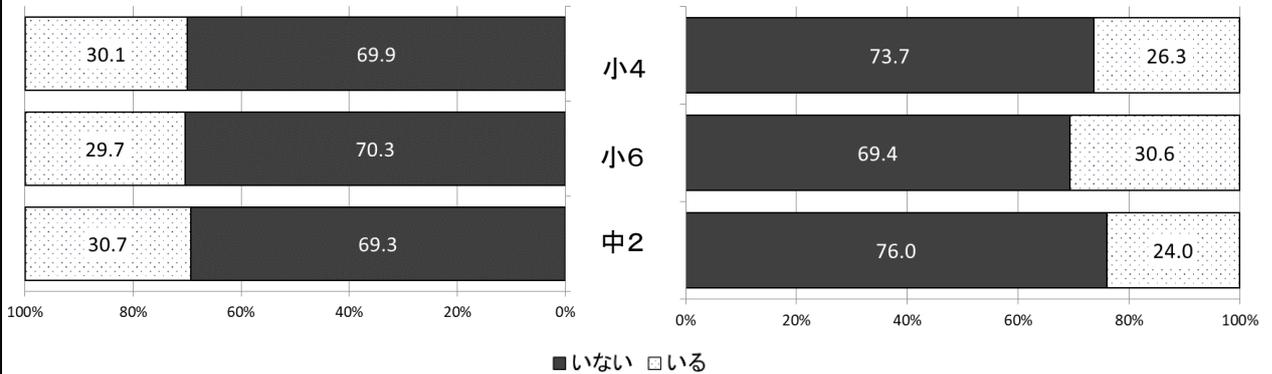


子どもの地域のつながり

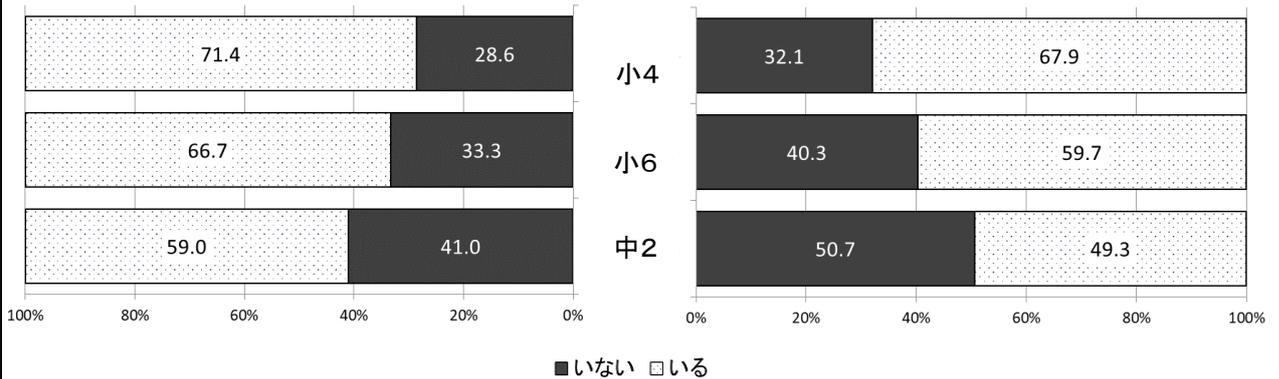
非生活困難世帯

生活困難世帯

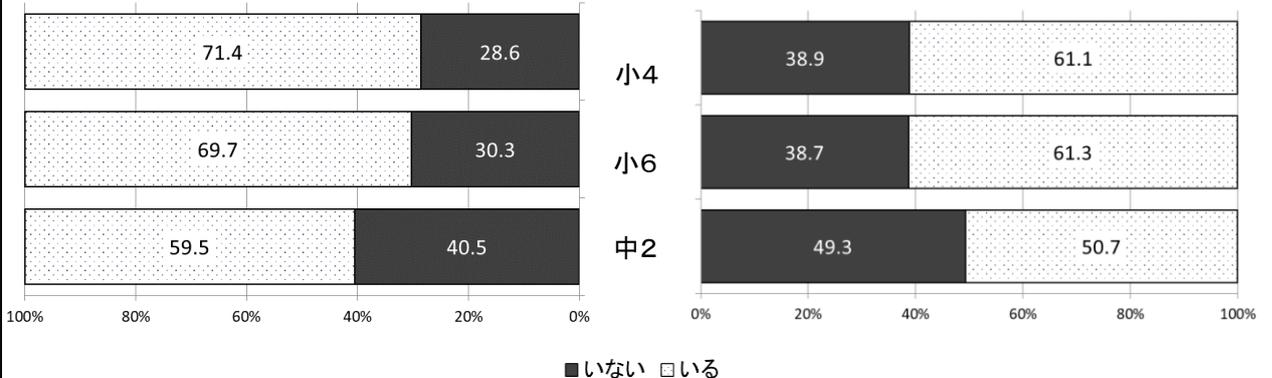
【将来の目標となる人の有無】



【自分のことを大切にしてくれる人の有無】



【道で会ったら挨拶をしてくれる人の有無】



子どもの地域のつながり